

都市再生整備計画(第5回変更)
本別地区

北海道 本別町

平成24年3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	ほんべつちよう 本別町	地区名	ほんべつちく 本別地区	面積	265 ha
計画期間	平成	19	年度	～	平成	23	年度
				交付期間	平成	19	年度
					平成	23	年度

目標
<p>大目標 賑わいと活力あふれる人にやさしいまちの創出</p> <p>目標1 鉄道廃止に伴うバス転換後の新たな交通拠点整備による賑わいの創出</p> <p>目標2 地域住民と来町者との交流拠点の創出を図る</p> <p>目標3 観光情報・地域情報発信による交流人口の拡大を図る。</p>

目標設定の根拠
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> かつては林業で繁栄したが、輸送体系の変遷により現在は農業が基幹産業となっており、豆類、小麦、甜菜や馬鈴薯などの畑作物の生産はもとより、酪農も盛んで、良質で安全な食糧を全国に供給している。 太陽と緑の恵みがあふれる「自然都市」づくりを進めるため「ニューカントリー構想」を構築し、実現に向けて、北海道開発局や北海道とともに役割に応じ連携を図りながら、構想に含まれる各種事業を実施し、互いに補完しあいながら総合的に施策を展開している。 中心市街地は本町の生活中心として形成されてきたが、人口の減少や商店経営者等の高齢化により商店街の空洞化が進んでいる。また、鉄道の廃止により、住民や観光客の来街に支障を来している。 本別町には、豆を原料とした加工品をはじめ、数多くの特産品があるが、PRや販売の拠点となる施設の設置が望まれているほか、「通過する町」から脱却するため、観光資源の発信基地として「道の駅」の整備が長年にわたり求められている。 農産物加工施設が廃止されてから創設した「本別町個性あるふるさとづくり寄付条例」に基づいた寄付の状況で、「農産物加工体験施設」整備を指定したものが全体の過半数を占めるなど、整備を望む声が少なくない。 都市再生整備計画の策定にあたり、行政・農協・商工会・自治会連合会・観光協会の5団体で「本別町まちづくり検討委員会」を組織し、具体的な整備方針について協議・提案を行った。 「いいひといいまちいきほんべつ」をキャッチフレーズに、住民、地域、行政が一体となったパートナーシップ型の「協働の社会」を目指している。 「町民みんなが家族のまちづくり」、生涯学習による「町民参画のまちづくり」、良質な豆で「元気な豆のまちほんべつ」など「ほんべつならではのまちづくりを全国に発信している。

課題
<p>鉄道廃止による駅機能の廃止は、周辺の賑わい喪失が危惧されるため、活性化が新たな賑わいを創出させるための喫緊の課題である。</p> <p>地区内3駅は、鉄道の廃止により、駅本来の機能は失ったが、代替バスの停留所となるため、一体化された再整備が望まれている。とりわけ、本別駅は長年「町の顔」として、また市街地の拠点施設として住民に親しまれ利用されてきたため、今後の活性化対策が急務である。</p> <p>現在、十勝東北部4町(池田町、本別町、足寄町、陸別町)が連携し、体験型観光の誘致事業を計画し、それぞれのまちの特色を活かしたメニューで都市圏を対象にした中高生の修学旅行誘致を予定している。本別町は、農業と食をテーマにした体験型メニューを検討しているが、既設の施設では狭隘であるなど不十分であるため、施設整備が課題となっている。</p> <p>本別町は、高速道路をはじめ国道や道道などの道路網が整備され、道東地区の中心に位置しているが、観光面においては景勝地がないため単なる「通過する町」になっている。</p>

将来ビジョン(中長期)
<p>本別町総合計画の基本構想にある「自然にやさしい心を大切に潤いのあるまちづくり」、「大地の心に響きわたり活力にみちたまちづくり」に、 快適でうるおいあふれる生活環境の整備 あらたな活力を生む商工業の振興</p> <p>地域に根ざした特色ある観光を柱としたまちづくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の特徴(農業と食)を生かした観光振興や体験、滞在型観光の推進を図る。 市街地の整備を図り、町民や来訪者のにぎわいと潤いのあるまちづくりを推進する。 地元で生産された安全で良質な農畜産物などの資源に付加価値を生み出し、農業、商工業の振興を図る。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
観光客入込数	人/年	町内観光施設への来訪者数	従来立ち寄りなかつた町外来訪者の誘致	114,000人/年	H19	150,000人/年 H23	
特産品町内売上高	百万円/年	地場農作物及びそれらを原材料とした加工品の町内売上高	販売施設拡充による売上高の増とそれに伴う内外への情報発信強化	120百万円/年	H19	140百万円/年 H23	
イベント参加者数	人/年	町民広場または都市公園内で開催されるイベントのうち参加者を特定していないもの	整備施設を活用したイベントを開催し、市街地中心部の活性化を図る	50,000人/年	H19	60,000人/人 H23	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(鉄道廃止に伴うバス転換後の新たな交通結節拠点の創出を図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道廃止後の代替バス利用者の利便性を図るため、待合所や道路整備を図る。 ・情報板や情報端末を設置し各施設のネットワーク化を進め、点ではなく線でつなげる。 ・それぞれの鉄道の駅としての歴史背景を踏まえ、特徴のある施設整備を進める。 ・恵まれた道路網を活かし、ハード面だけではなくソフト面も強化し交通ネットワークの構築を図る。 	<p>地域生活基盤施設(基幹事業/町)、道路(基幹事業/町)、高質空間形成施設(基幹事業/町)、地域創造支援事業(提案事業/町)、ふるさと銀河線代替バス施設整備事業(関連事業/国)</p>
<p>整備方針2(地域住民と来訪者との交流拠点の創出を図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官民協働で「道の駅」施設整備を進めるとともに機能強化を図る。 ・観光客が地場産品の加工体験ができる農産物加工施設を整備する。 ・施設間のネットワーク強化で地域住民のコミュニティと観光客との交流を進める。 ・各施設に地域の文化・紹介できるスペースを整備する。 ・旧仙美里駅は軍馬補充部があり多くの軍馬が送り出されたことや「バロン西」その所属だったことから、本町の歴史民俗資料館には国内有数の軍馬資料が収蔵されているため、鉄道展示室として整備し、歴史民俗資料館とリンクした企画展示など中心市街地へ導く。 ・旧本別駅の跨線橋は、国鉄網走本線開業後まもなく建設され歴史も古く、そのたまたまは鉄道マニアからも評価が高いため、保存に向け改修し、鉄道記念館として整備をして、在りし日の鉄道のシンボルとする。 	<p>地域生活基盤施設(基幹事業)、道路(基幹事業/町)道路、高質空間形成施設(基幹事業/町)、高次都市施設(基幹事業/町)、既存建造物活用事業(基幹事業/町)、地域創造支援事業(提案事業/町)、十勝東北部地域産業観光事業(関連事業/NPO)、岡女堂本家施設改修事業(関連事業/株)とかち豆工房)、岡女堂本家道の駅運営事業(関連事業/NPO)</p>
<p>整備方針3(観光情報・地域情報発信による交流人口の拡大を図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休憩スペースやトイレ等の整備で旅行者の利便性を確保し、通過される町からの脱却を図る。 ・すべての施設に観光案内スペースを設置、特に日本別駅と旧岡女堂駅にはマルチメディア端末と大型ディスプレイを配置し、旬の観光・地域情報を発信する。 ・地場産品展示の整備拡充を進め、即売もできるほか、観光案内との連携で、きめ細かな情報を提供する。 ・新たな特産品開発のために農産物加工施設を整備し、新たな情報発信を目指す。 	<p>地域生活基盤施設(基幹事業)、道路(基幹事業/町)、高質空間形成施設(基幹事業/町)、高次都市施設(基幹事業/町)、地域創造支援事業(提案事業/町)、十勝東北部地域産業観光事業(関連事業/NPO)、岡女堂本家施設改修事業(関連事業/株)とかち豆工房)道の駅運営事業(関連事業/NPO)</p>
<p>その他</p> <p>事業後の計画的まちづくり活動</p> <p>・「旧本別駅を考える会」(駅前通商店街)や「本別町商店街まちづくり委員会」(商工会ほか任意団体役員など)などの民意を踏まえ、地域住民と行政が協力しながら「協働のまちづくり」の推進を図る。</p> <p>交付期間中の計画の管理について</p> <p>・交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実に効果をあげるために、「本別町まちづくり検討委員会」が事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。その結果については、随時住民に情報公開する。</p>	

